



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらばと

2013.6

No.350

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



秋ヶ瀬公園と周辺の哺乳類

海老原美夫(さいたま市)

長年秋ヶ瀬公園やその周辺で鳥見をしていると、鳥類以外にも哺乳類・爬虫類・両生類・昆虫など、いろいろな生物に出会う。私の写真資料から、今回は哺乳類5種を紹介する。

ホンドキツネ

英名 Japanese Red Fox

学名 *Vulpes vulpes japonica*



本種は、北半球に広く生息するアカギツネ(イヌ科キツネ属)の日本亜種とされている。

埼玉県環境部自然保護課編集『埼玉の鳥とけものたち』(1986年)によれば、「主に台地・丘陵帯～山地帯にかけて分布している。低地帯での生息情報として、北本市石戸宿周辺での報告がある」とあり、その頃から荒川沿いに南下していると言われていた。

私が秋ヶ瀬公園付近で初めて撮影できたのは2005年5月。目撃した最南地点は戸田市の彩湖付近。更にもその南については調査に行っていないので分からない。

ある家族を継続観察する機会に恵まれたのは、2008年4月21日から10月21日までの半年間。多くの人々の散歩道になっている土手の、対岸に巣穴があった。かなり距離があるが、キツネは飛ばないし、鳥より大きい。観察は難しくなかった。全く警戒することなく、のびのびとした生態を見せてくれ、5頭の子が無事に育った。その間、通りすぎる人たちには、野鳥を観察しているふりをしてだまし続けた。

2010年までは時々目撃したが、ここ2～3年は見てない。去年は久しぶりに巣穴を出入りしている形跡があったので気をつけていたが、ある日の夕方出てきたのはタヌキだった。キツネの古巣をタヌキが利用していたのだ。タヌキにだまされた。

ホンドタヌキ

英名 Japanese Raccoon Dog

学名 *Nyctereutes procyonoides viverrinus*



タヌキ(イヌ科タヌキ属)は日本、朝鮮半島、中国、ロシア東部など極東地域にだけ生息し、世界的に見れば珍しい動物。ホンドタヌキはその日本亜種である。英名の「Raccoon」はアライグマのことで、姿が似ていることから名付けられたようだ。

この地域で見かける野生哺乳類としては、最も数が多い。ある調査によると、2008年7月現在東京23区内だけで1,000頭以上いると推定されるとのこと。「大都会にすむ世界的珍獣」ということになる。その多さはテレビ番組でも報道された。

秋ヶ瀬公園内で見かけるけもの道は大部分本種のものようで、それを追って藪の中に踏み込むと、「タヌキのため糞」を見かける事

もある。縄張りの何ヵ所か決まった場所で毎日糞をする。堆積は大きいもので直径 50cm、高さ 20cm にもなる。これで、タヌキ同士が互いに存在を知らせ合うと言われる。

時々脱毛症状が進行した疥癬症のタヌキも見かける。その姿は大変痛々しい。ヒゼンダニ類の寄生で発症する。ヒゼンダニ類の動物から人への感染はあまりないようだが、人に付着したダニがイヌやネコにうつることもあり得る。接触には注意しなければならない。

ニホンイタチ

英名 Japanese Weasel

学名 *Mustela itatsi*



イタチ科イタチ属の日本固有種。ホンドイタチとも言う。冬眠しないで1年中昼夜を問わず活動すると言われているが、私が観察・写真撮影したのは、春と秋の暖かい日の水辺が多い。手足の指の間にはみずかきがあり、よく泳ぐ。

似た移入種でチョウセンイタチというのがある。九州、四国、中国地方、近畿、東海に分布を広げ、本種を圧迫しているというが、この地域で見るのは、尾が短いなどの特徴から、ニホンイタチであると思われる。

「いたちごっこ」とは、互いに同じことを繰り返して進展がない状態を言う。昔の子供の遊びで、「いたちごっこ、ねずみごっこ」と言いながら相手の手の甲をつまんで手を重ねることを互いに繰り返す。素早くつまみ合う様子がイタチやネズミが噛みつく様子に似ているとか。際限なく繰り返されるので、この言葉が生まれたと言うとあるが、そんな遊びがあることも知らなかった。

アゴヒゲアザラシ

英名 Bearded Seal

学名 *Erignathus barbatus*

アザラシ科アゴヒゲアザラシ属。北極海周辺からアラスカ海域、オホーツク海に 50 万頭ほど生息する。

2002 年 8 月多摩川丸子橋付近で



発見され「タマちゃん」と呼ばれるようになったアゴヒゲアザラシが、2003 年 4 月秋ヶ瀬公園近くの荒川に現れ、2004 年 4 月に見えなくなるまでブームが続いた。もちろん通常の分布ではない。迷行例である。

ゴマフアザラシ

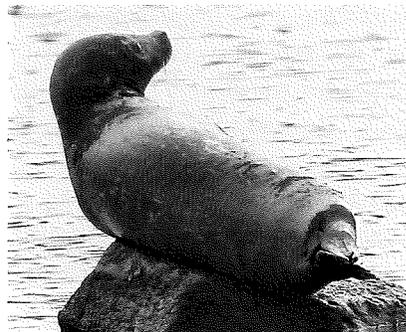
英名 Spotted Seal

学名 *Phoca largha*

アザラシ科ゴマフアザラシ属。ベーリング海、オホーツク海、太平洋北部、日本海から黄海にまで分布している。冬から春にかけては移動回遊する。

ゴマフアザラシと見られるアザラシが、やはり秋ヶ瀬公園近くの荒川に現れたのは 2011 年 10 月のこと。志木市は「志木あらちゃん」の名前で住民票を交付したり、ホームページを開設するなどした。報道陣や見物人が連日数百人詰めかける騒ぎになったが、11 月 24 日を最後に見えなくなった。

これももちろん迷行例。写真は 10 月 18 日、まだ人があまり集まっていなかったさいたま市側のブロックで休む姿を撮影した。



朱鷺の舞

榎本秀和(鴻巣市)

私は野生のトキを見たことがある。もちろん日本国内ではなく、中国での話であるが。

野生のトキの観察のために、私が中国陝西(せんせい)省洋県の地を訪れたのは1998年9月のこと(『しらこぼと』1998年12月号掲載の拙稿「朱鷺をたずねて」参照)。日本の佐渡島にもたらされたトキは、この洋県で捕獲されたトキで、近年放鳥されているのはその子孫ということになる。

それはともかく、いくら中国まで行ったとしても、トキを探し出して観察するというのは簡単なことではない。毎日、何時間もぬかるんだ泥地を歩き、1羽でも見つけられたら大喜びしたものだ。10数羽の群れなどを見つけようものなら、まさに天にも昇るうれしさだったことを覚えている。

話は変わって、私の職場がさいたま市の北浦和だったころ、職場の近くに大きな病院があつて、通りをはさんだ向かいに看護師寮があつた。たまたま始業時刻だったのだろう。あるとき、寮から10数人の看護師が出てきて、三々五々、通りを小走りに渡って病院内に入っていく。私はその光景を、職場の4階の窓越しに遠目に見ていたのだが、朱鷺色のナース服に身を包んだ彼女たちの姿が、かつて中国で見た水辺に遊ぶトキの一群を彷彿とさせ、思わず見とれてしまったのだった。

がんばれ、エイハブ!

佐伯鶴城(三郷市)

「ああ、生きていた。よかった」。久しぶりに新三郷駅前のバス停でエイハブに会えた。

そのハクセキレイに初めて会ったのは2ヶ月前、新三郷駅のモール街の中だ。少し歩き方が不自由そうに見えた。よく見ると右足指がない。しかし懸命に生きていく姿に強さがあつた。思わず白鯨に片足を奪われたエイハブ船長を思い出し(船長は復讐心で生きていたのだが)、勝手にエイハブと名付けた。

いまは、新三郷駅を利用するのが楽しみである。

驚きました!!

藤原寛治(さいたま市)

県内の某公園でのことです。驚きました!! 前を歩いていたご婦人が手を伸ばして、待っているとヤマガラがやって来て、手に乗ったのです(すぐに離れましたが)。何やら、微笑ましい光景と見えないこともないのですが……。

試しにかみさんにも手を伸ばしてもらおうと、やはり、ヤマガラが来ました。その後、なんとシジュウカラも乗りました。近くの枝に来たヤマガラに、自分もやってみると、やはり来ました。瞬間、飛び降りてきたヤマガラの重さを実感……。

普通は、人がいるとヤマガラもシジュウカラも離れていくはずですが、ここでは、どんどん近づいてくるのです。そして、手を伸ばすと、乗ります。パッと来てパッと離れるという感じですが。少しの間で、かみさんには、ヤマガラが3回、シジュウカラが2回来て、手に乗りました。

誰かが、手にヒマワリの種子か何かの餌を乗せて、餌付けしたのは間違いなさそうですね。これも困った問題です。

とはいえ、鳥との信頼関係みたいなものがあつてのことかもしれないという気もします。

ところで、シジュウカラとヤマガラを比べると、シジュウカラの方が警戒心が強いのか指先にちょっととまるくらいでしたが、ヤマガラは、しっかり指先に乗ってきました。餌があれば掌にも乗りそうでした。

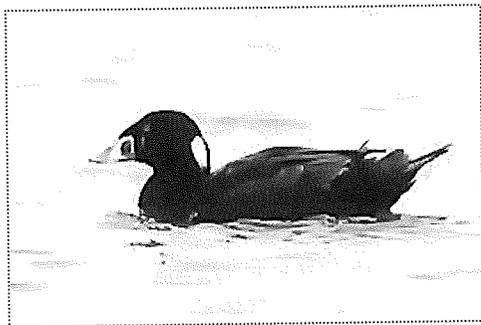


カルガモの親子 石塚 奏(撮影当時小6)

●アラナミキンクロ

分類 カモ目カモ科ビロードキンクロ属

英名 Surf Scoter

学名 *Melanitta perspicillata*

2013年3月25日(月)午後4時過ぎ、本庄市下仁手の利根川で、8羽のヨシガモと一緒にゆっくり泳いでいる1羽を会員の森田文三郎さんが撮影しました。近くに来てくれない

ので諦めて帰り、翌朝にはもういなかったとのこと。

額に白色部がないことや羽色にやや褐色味があることなどから、アラナミキンクロ雄若鳥と思われます。

過去県内では本種の記録はまったくなく、今回が初記録です。県内で記録された野鳥の328種目にあたります。

アラスカ西部からカナダ北部で繁殖し、北米大陸の東海岸と西海岸、アリューシャン列島で越冬、日本にはまれな冬鳥として飛来します。『日本鳥類目録改訂第7版』(日本鳥学会)によれば、距離的に近い所では茨城県で1975年3月、2003年3月、2006年1月に記録され、ほかに根室、岩手、山形、宮城、石川でも記録されています。

写真や原稿、情報、アイデアなど、いつもお待ちしております

編集部

●写真、イラスト

先月号の表紙をご覧ください。このような身近な野鳥の写真大歓迎です。それにしても先月号の写真はユーモアまで写っていました。

また、季節に合わせるために1年間寝かせるときもあります。応募作品を表紙で採用させていただくか、カットで採用させていただくかは編集部にお任せください。

イラストも大歓迎です。

●2～3ページの原稿

例えば、お薦めの読み物や図鑑、賢いクレジットカードの使い方、安上がりの探鳥旅行、観察道具の一工夫、フィールドノートの書き方などもお待ちしております。

特に、お気に入りの探鳥地をお持ちの方、あなたの記録を活字にして、是非、そのフィールドをご紹介ください。今年の3月号「見沼田んぼ東部」はその好例です。

作成までの手順、写真や地図は編集部がお手伝いできます。採否の判断は編集部で相談させていただきます。

●会員の声(今月号の4ページ参照)

600～800字程度が収まりやすい分量です。日常のふと心にとまったことなど内容は自由です。特集のアイデア、エッセイ、短歌、俳句も嬉しいです。野鳥珍百景もまだまだ続けたいと思っています。

●ご連絡

郵送やメールでの宛先は、『しらこぼと』最終ページの最下段枠内をご参照ください。



キジ 川越市新河岸川 2013年4月26日
ブリングマン・ウィリアム



野鳥情報

久喜市久喜菖蒲公園 ◇1月19日昼、昭和沼でトモエガモ1羽、ヨシガモ10羽以上、マガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、バン、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、オオジュリン、モズ、ウグイス、メジロ、ツグミ、ジョウビタキなど。トモエガモが珍しく、ヨシガモがたくさんいた(本多己秀・久文字)。

戸田市道満グリーンパーク、彩湖 ◇2月3日、マガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、コガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、オオバン、カワウ、チョウゲンボウ、ツグミ、ジョウビタキ♀、アカハラ、シメ、メジロ、モズなど(陶山和良)。

さいたま市南区白幡沼 ◇2月10日、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、バン(陶山和良)。

三郷市早稲田4丁目 ◇3月19日午前11時30分、シラコバト2羽、武蔵野線の線路南側を飛んでいた(望月祐子)。

越谷市埼玉鴨場 ◇3月19日、地元で行っている生き物調査で特別の許可をもらい埼玉鴨場の中で野鳥観察を行う。特別な野鳥は観察できなかったが、歩く土はフカフカ、回りの喧騒からも全くの別世界であった。確認順に、ヒヨドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、アオジ、コゲラ、オオタカ若鳥、ハイタカおそらく♀、メジロ、ウグイス、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、ヤマガラ、シジュウカラ。ヤマガラとシジュウカラが盛んに轉っていて、観察の間、途切れることがなかった。ウグイスは後一步の轉り。池では、ホシハジロ、コガモ、マガモ、ハシビロガモ、カルガモが全部合わせても30羽以下。カモたちの少なさが気になった。カワセミが鋭く「チーチー」と鳴き交わしながら飛んでいた。その他ダイサギ、カワウ、キジバト、ツグミ、カシラダカ、スズメ。スズメは住宅地が迫っている正門あたりでやっと確認できた。確認種

は26種(山部直喜)。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇3月22日、ツミと思われる小型のタカ1羽、森の中を飛ぶ。アカゲラ♀1羽、ルリビタキ♀型1羽、シロハラ1羽+。ヒガラ3羽、さえずりも聞かれた。エナガ数羽の中に尾の先端が曲がっている1羽。もう抱卵を始めているらしい。4月4日、ツミの声、コジュケイの声、シロハラ♂1羽、♀1羽。カケス5羽+、オオタカの「ピョー」という声を真似るが、声量がなくてヘタクソ。キャンプ場近くの住宅造成地をコチドリ1羽が歩きまわる(小林みどり)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇3月20日、カワラヒワ15羽+が梢で休み、シジュウカラとメジロがせわしなく枝渡りをしている。ウグイスの轉りがやっと一人前となり、ツグミが帰りのタイミングを図っている。カケス数羽が騒いでいる。ベニマシコ♀2羽が、新芽を啄み、アリスイが「フィー」の鳴き声を発し、コジュケイも「チョットコイ」を連発。ヒドリガモは50羽程が集結して帰り支度。ジョウビタキ♀も尾の振りが激しくなっている。ハヤブサの幼鳥が木の梢でゆっくりと休んでいた(内田克二)。
◇3月23日午前10時頃、ウグイスの轉り、ツバメ、シロハラ1羽、シメ3羽、オオタカ1羽、上空で帆翔。マヒワ9羽の群れ、クヌギの新芽を食べる。アカゲラ♀、ペアで行動。♂の頭部の赤が鮮やか。このまま居てくれるといいな! メジロ、ガビチヨウのさえずり。スプリングエフェメラルの蝶、ツマキチョウが飛んでいた。全部で♂が3頭、1年ぶりの再会(藤原寛治)。
◇3月25日午後3時頃、アリスイ1羽、ジョウビタキ♀1羽、マヒワ60羽位。アシ原でジョウビタキ♀を観察していると、上空をマヒワの大群が移動していった。再度、アシ原に目を移したところ、低木の中にアリスイを見つけたが、直ぐに下に隠れられてしまった。4月23日午前11時頃、シメ1羽、コムクドリ7~8羽、エナガ11羽(幼鳥9羽含む)。シメの嘴の鉛色を確認しようとしていたら、その近くで動くコムクド

りを発見。今季初観察となった。葉が多く
♂♀の数を数えようと少し動いたところ、
飛び去ってしまう。そこから少し歩くと、
エナガの声が聞こえたので、注視すると幼
鳥が9羽、枝に隙間無く並んで止まってい
た。離れた所から観察していると、親鳥が
餌を運んで来ていたので、幼鳥が無事に独
り立ち出来ることを願い、直ぐに立ち去っ
た(菊川和男)。=下写真=



鴻巣市逆川2丁目 ◇3月28日、電線にとま
るツバメを1羽確認。今季初認(榎本みち
子)。

白岡市小久喜 N36.0184 E139.6654 ◇3
月29日、上空をツバメ1羽通過。今年の初
認(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区大谷 ◇3月29日、「思い
出の里」正門付近の木にとまった2羽のコ
ゲラのうち1羽がドラミングをする。この
個体は後頭部の赤い羽が見えないが、ない
のか、あるけれど見えないのか? 判断が
難しい(小林みどり)。

さいたま市見沼区染谷 ◇3月29日、ハシボ
ソガラス1羽、巣に座っている(小林みど
り)。

さいたま市北区芝川(県道2号線～鷲山橋)
◇4月1日、カイツブリの声、コガモ♂5
羽、♀3羽。キンクロハジロ♀型は旅立っ
たらしい。カワウ非繁殖羽1羽、カワセミ
3羽、ツバメ1羽、オオジュリン1羽(小
林みどり)。

鴻巣市大間1丁目 ◇4月1日、ツバメ1羽
が我が家周辺を鳴きながら飛びまわる。今
季初認(榎本秀和)。

春日部市増田新田 ◇4月4日、ツバメ1羽、
我が家の古巣に出入りするのを初認。昨年

は3月31日でした。4月14日午前8時47分、
オオヨシキリ1羽、自宅近くの安之堀川(農
業用水の排水路)西岸の生垣内で、ギョギョ
シとほんの少しグゼるのを聞き、思わず近
づいたら飛び出して離れた木に1羽止まっ
た。今年の初認(石川敏男)。

さいたま市中央区野公園 ◇4月5日、恒
例の?通勤鳥見。いつものシジュウカラ、
コゲラに混ざってままだいました、今季に限
っては見慣れてしまったヒガラ。来季以降
の分も合わせて見ておきました…と、また
満員電車の中からメール(石塚敬二郎)。

さいたま市岩槻区加倉1丁目 ◇4月12日午
前7時20分頃、浄国寺付近の上空をヒヨド
リの群れ100羽+が横に広がりながら、北
に向って飛んで行った(藤原寛治)。

さいたま市南区松木4丁目 ◇4月13日、自
転車で走行中、上空でハクセキレイ複数の
けたたましい鳴き声を耳にし、停止して眺
めると、ハクセキレイ2羽がチョウゲンボ
ウを追跡中。必死の2羽にたまらず、チョ
ウゲンボウは彩湖方面に飛び去って行った
(陶山和良)。

春日部市武里中野 ◇4月14日午後2時30分、
チュウサギ1羽、近くの田んぼに飛来。今
年の初認。4月16日午後5時30分、ムナグ
ロ、それらしき声を2回ほど聞いたが姿ま
では確認できず。翌4月17日午前7時30分
頃、水が入り始めた田んぼに15~16羽の群
れが降り立って餌を探し回っていた。今年
の初認。4月18日、セッカの初鳴き。田ん
ぼから飛び上がり、上昇しながら、不完全
だが「ヒッ、ヒッ、ヒッ」と短く鳴いて遠
ざかり、離れた田んぼに降下した(石川敏
男)。

さいたま市岩槻区本町1丁目 ◇4月16日午
前7時35分頃、上空をヒヨドリの群れ80羽
位が縦に長くなりながら、北に向って飛ん
で行った(藤原寛治)。

表紙の写真

スズメ目セキレイ科タヒバリ属ビンズイ
稲荷山公園で撮影しました。

佐藤久志(狭山市)



行事案内



カイツブリ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月1日(土)

集合：午前8時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越7:19(準急)→坂戸で越生線乗り換え7:40発。または寄居6:43→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR埼京線大宮6:37→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、久保田、志村、杉原、高草木、高橋(優)、藤掛、藤澤、増尾、持丸
見どころ：2006年以降、この探鳥会ではホトトギスがカッコウと入れ替わっています。今年は工事で川岸の景色も幾分変化しています。鳥たちの様子はいかがでしょうか。ちょっと楽しみです。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月2日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス8:36発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、浅見、大坂、内藤、相原(修)、岡安、立岩、永野、山野、飛田、吉原(早)、相原(友)、柴田、村上、長谷川

見どころ：緑いっぱいの公園で、鳥たちの声に耳を傾けましょう。ホトトギス、ウグイス、オオヨシキリ。そして、運が良ければ、サンコウチョウも(一昨年は聞きました)!

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：6月2日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、倉林、赤堀、藤田(敏)、野口(修)、大井

見どころ：新緑の芝川第一調節池を一周します。爽やかな風に乗って鳥たちの歌声が聞こえてきます。コアジサシのダイビングにも期待しましょう。

ご注意 途中トイレがありません。天候によってはコースを変更します。

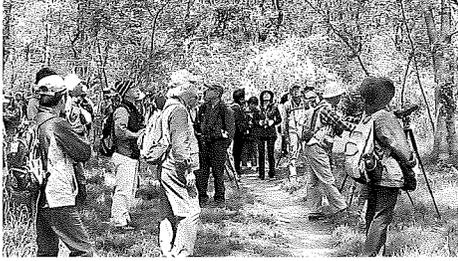
新潟県魚沼市・銀山平探鳥会(要予約)

期日：6月2日(日)

詳細は、5月号をご覧ください。



昨年秋の下見ではこの上をイヌワシが舞いました



今年4月28日秋ヶ瀬公園探鳥会

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月9日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発に乗車。

担当：千島、森本、倉崎、栗原、新井(巖)、飛田、鶴飼、中川、村上

見どころ：子育て中の鳥を探しながら押切河原まで歩きます。ホトトギスの「東京特許許可局」と聞きなす鋭い声に耳を傾けながら、オオヨシキリやカイツブリの幼鳥に会えることを期待しましょう。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：6月13日（木）

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。
交通：東武伊勢崎線羽生駅東口8:05発または南羽生駅8:22発の羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート（ムジナもん号）で、「羽生水郷公園・キャッセ羽生」下車。

担当：相原(修)、中里、新井(巖)、栗原、植平、飛田、竹山、中川、相原(友)

見どころ：この公園での6月の探鳥会は2006年以来7年ぶりとなります。青葉にひそむ夏鳥や巣立ったばかりの可愛いヒナがみられるといいですね。梅雨入りが心配される時期ですが、平日の公園もなかなか楽しいですよ。

共催：羽生水郷公園管理事務所（さいたま水族館）

ご注意：帰りのバスの便は14:51発です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月15日（土）午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：倉林、青木、浅見、小林(み)、須崎、赤堀、宇野澤、楠見、小菅、柴野、新部、増田、畠山、若林、渡辺

見所：梅雨の合間の探鳥会です。昨年は雨で中止。一昨年は晴れて、コチドリ、オオヨシキリ、セッカなど24種が確認されました。今年はどんな鳥達に会えるでしょうか。

日本野鳥の会埼玉 総会のご案内

日時：6月30日（日）

午後1時00分 受付開始

午後1時30分～2時30分 記念講演

午後2時30分～4時30分 総会

会場：さいたま市民会館うらわ（さいたま市浦和区仲町2-10-22）7階705-706集会室。

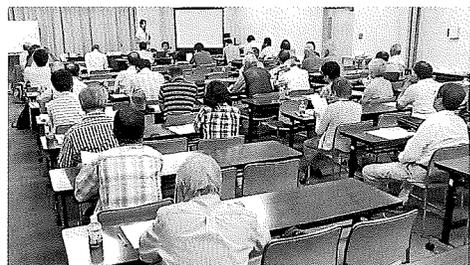
交通：JR京浜東北線浦和駅西口から県庁通りを西へ。埼玉会館手前角右折。玉蔵院を通り抜けて約400m左側。徒歩約10分。

記念講演：公益財団本部常勤常務理事兼事務局長 佐久間仁さん。「日本野鳥の会知っているようで知られていない実情」（仮題）。

総会議題：平成24年度事業報告と決算報告、平成25年度事業計画案と予算案、平成25年度役員の選出。

参加資格：会員であればどなたでも。

前年度の活動を振り返り、新年度の予算や方針を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。



昨年6月24日の総会



行事報告

1月26日(土) 久喜市 久喜菖蒲公園

参加：30名 天気：晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ バン オオバン セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン シメ スズメ ムクドリ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) (番外：ドバト) 沼を見渡せるデッキに出るや、ブイのロープにとまるトモエガモを発見。皆のテンションが一気に上昇。眼下のオオバンやオナガガモ、棧橋上のアオサギやカワウに別れを告げ、林の遊歩道に入るやヤマガラ、メジロ、シジュウカラの混群だ。カンムリカイツブリが潜水を繰り返す姿を右に見ながら進むと、トモエガモが泳ぎだした。全員が順光で♂2羽♀1羽を観察。浮島にカワセミ。アシ原からウグイスが飛びだし、アオジが綺麗な黄色い腹を見せた。ホオジロが、オオジュリンが、シジュウカラがアシの間を忙しく飛び回る。誰かがここでは珍しいバン2羽を見つけた。遠方ではミヤマガラスの大群が舞った。(長嶋宏之)

1月27日(日) 長瀬町 長瀬

参加：58名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ ノスリ バン キジバト アオゲラ アカゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ カワガラス ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) (番外：ガビチョウ) この冬は鳥の個体数を少なく感じている。商店街を抜け岩畳へ降り

る。鳥が少ない。どこにいるのか。次のポイントでは当地ならではのカワガラスをじっくり観察。水管橋からはキャンプ場の池のバンを見るが珍しい。コハクチョウ3羽これまた珍しい。餌やり中止の影響か? げんきプラザ近くの畑でビンズイの小群など、今回は、さながら主軸より控え選手の活躍が目立った野球のようだった。(井上幹男)

1月27日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加：57名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ オオバン キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番外：ドバト) 冷たい北風の中を進むと、オオジュリンやアオジが枯れ草の中で姿を見せてくれた。突然頭上を飛んだアカゲラを見送って上沼に向かうと、釣り人不在のために増えたカルガモ、コガモに加えてマガモが10数羽居て、日光に照らされた緑色が綺麗だった。上沼東側の枯れた草地では急に数を増したアオジがカシラダカ、シメと共に飛び交った。最後にカラスにモビングされたオオタカが飛んで締めくくった。(玉井正晴)

1月27日(日) 狭山市 入間川

参加：22名 天気：快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ トビ バン オオバン イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ セッカ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ ウソ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) (番外：ソウシチョウ、ドバト) 入間川ではめずらしくカモが4種。さびしい話だが、これでも多いほう。しかし、ヒメアマツバメが低く飛び、カワセミもよく見られた。稲荷山公園でも、シロハラやサクラの花芽を食べるウソが間近に見られ、皆を楽しませてくれた。(長谷部謙二)

1月31日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 33名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オナガガモ トビ ノスリ コチョウゲンボウ クイナ バン オオバン クサシギ タシギ キジ バト トラフズク カワセミ アリスイ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ ホオアカ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (48種) 今回から公園側との共催になった。林の中では相変わらずヤマガラが多い。池のほとりではクイナが姿を見せてくれた。皆が観察できる大サービスだった。たんぼに出ると今年もコチョウゲンボウが来てくれた。いつもの定位置の電線に止まっていた。最後は外堀のヤナギの木にトラフズクがじっとしていた。皆驚くやら興奮するやら大騒ぎだ。予想だにしていなかった。見つけてくれたNさんありがとう。(中里裕一)

2月2日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加: 35名 天気: 曇後晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン イカルチドリ クサシギ キジバト アオバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ クロジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) (番外: ガビチョウ、ドバト) 出発する前にアオバトがいるとの声、残念ながら2人だけしか見ることができなかった。雑木林の梢あたりをキクイタダキ、エナガ、シジュウカラ、コゲラ、メジロの混群が移動していた。ジョウビタキ♂、アオジ♂が出て、沢のところにここでは珍しいクロジ♂がいた。ホテルの里でアカゲラ、ガビチョウ数羽。上空をウソが鳴きながら飛んだ。都幾川沿いの道から遠くの枝にカワセミ、道沿いの木にクロジ♂

若。河原に下りると、タヒバリが水浴びをしていた。イカルチドリ、クサシギが中州にいた。アシ原にオオジュリン、ここでは珍しい。チョウゲンボウが現れた。土手を歩いていると、畑の上空でヒバリが囀り、遠くの木にノスリ。再度河原に下りるとベニマシコが鳴いていたが姿を見せなかった。オオタカ若が下流に飛んで木に止まった。オオタカ成鳥も高い木の枝に止まっていてゆっくり見ることができた。(千島康幸)

2月3日(日) 北本市 石戸宿

参加: 67名 天気: 晴

カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ミサゴ トビ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ コジュケイ キジ (♀の雄化個体) キジバト カワセミ アリスイ アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシブトガラス (44種) (番外: ガビチョウ、ソウシチョウ) 風の強い日となったが、石戸宿は谷地のためほとんど風無し。アカゲラ、ルリビタキは多くの人が見られた。ミサゴの出現は珍しい。また、変なキジを見たので「野鳥記録委員会」に判定を依頼。♀の雄化個体とのこと。アリスイは1人確認のため参考記録としたが、鳥合せ解散後、撮影した写真で確認できたので観察種に入れた。(吉原俊雄)

2月3日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 60名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ ノスリ チョウゲンボウ オオバン ヤマシギ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外: ドバト) 朝から強い風が吹き、やむなくコースを変更してヘルシーロードへ。出発してすぐ植木畑でネット越しではあったがヤマシギを見られた人が羨ましい。風に阻まれて小鳥たちもまばら。(手塚正義)



●今年も「ヒナを拾わないで！」

野鳥のヒナが地上にいても、拾わないでください。親鳥が近くにいる、人がいなくなるのを待っています。ヒナをそのままにして、できるだけ早くその場から離れてください。ネコやカラス、車などが心配なら、ヒナを近くの茂みなどに移動することはできます。親鳥はヒナの声で居場所がわかります。人が鳥のヒナを、自然界で生きていけるように育てることはできません。何とか元気に育ってと祈りながら、そのまましておきましょう。本部のホームページ、「当会の活動」>「普及教育」>「ヒナを拾わないでキャンペーン」で詳しく説明していて、ポスターをPDFでダウンロードできます。



●県鳥獣保護員に3名推薦

鳥獣保護員とは、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護法)に基き、鳥獣保護区の管理、狩猟の指導、鳥獣に関する各種の調査、違法捕獲等の監視取り締まりなどの業務に当たる県の非常勤職員という立場の人たちです。

当会は平成 25 年度埼玉県鳥獣保護員の推薦依頼を受けて、前年度から継続再任の小荷田行男、橋口長和の2名に加え、小林みどりを新任として、合計3名を推薦しました。

●さぎ山記念館展示に資料提供

さぎ山記念公園(さいたま市緑区)の一

角にある資料館、さぎ山記念館から「バードウィーク期間(5/10-16)中に少し展示をしたいので、配布物を提供してほしい」とのこと。海老原美夫事務局長が現地に行き事情を確認した上で、当会が過去 25 年間続けてきたさぎ山記念公園周辺探鳥会の資料 100 枚を急遽作成、加えて本部発行フリーペーパー『トリート』100 部、入会案内パンフレット 100 部、「ヒナを拾わないでキャンペーン」ポスター4枚などを提供しました。

●会員数は

5月1日現在 1,879 人。

活動と予定

●4月の活動

- 4月13日(土)『しらこぼと』5月号校正(海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、長嶋宏之、藤掛保司、山田義郎)。
- 4月21日(日)役員会(司会:青木正俊、各部の報告・鳥獣保護員推薦・その他)。
- 同日 全国野鳥密猟対策連絡会主催<密猟対策のための研修会>(都内品川区)に出席(橋口長和、小林みどり)。
- 4月22日(月)『埼玉会報だけの会員』に向け『しらこぼと』5月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

●6月の予定

- 6月1日(土) 編集部・普及部・研究部会。
- 6月8日(土) 7月号校正(午後4時から)。
- 6月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 6月16日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

繁殖のシーズンを迎えて、子育て中の鳥たちの巣近くに長時間粘るカメラマンたちが気になる季節です。どうか近寄らないでください。(海)

しらこぼと 2013 年6月号(第 350 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社